

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成26年度第3回(定例会)

署名人

饒波正博

委員長

添石幸伸

開催日時 平成26年5月9日(金)

開会 午前10時00分

閉会 午前
午後11時37分

開催場所 那覇市役所11階 1101A・B会議室

出席委員 添石幸伸委員長、喜久里美也子委員、饒波正博委員、神村洋子委員、渡慶次克彦教育長

議 事 日 程

(1は非公開)

- 1 議案第4号 那覇市立幼稚園保育料等条例の一部を改正する条例制定に関する意見の申出について 【こども政策課】
- 2 報告1 那覇市健康ウォーキング推進事業の概要説明について 【市民スポーツ課】
- 3 議案第5号 教育事務の点検評価対象事務事業の決定について 【総務課】

出席職員

- 【生涯学習部】伊良皆宜俣部長、屋比久猛義副部長
(総務課) 山内健課長、佐久川敏明副参事、伊禮道子主査
(市民スポーツ課) 我那覇生男課長、當間一也副参事
- 【学校教育部】田端一正部長、森田浩次副部長
(学校教育課) 渡辺英二課長、吉村雅也指導主事
- 【こどもみらい部】本部栄治副部長
(こども政策課) 諸見里律子副参事、惣慶敦子主幹

会議録作成(総務課) 赤嶺明日香主査

添石委員長

ただいまから平成26年度第3回教育委員会会議定例会を開催いたします。本日の会議録署名は饒波委員にお願いいたします。議案第4号「那覇市立幼稚園保育料等条例の一部を改正する条例制定に関する意見の申出について」は、那覇市議会6月定例会へ提案前の案件が含まれるため、非公開とすることが適当であると思われま。なお、会議は非公開となりますが、会議録については、那覇市議会6月定例会へ条例改正の議案を提出したのちに公開することになります。それでは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項及び第7項」により、会議の非公開について採決したいと思ひます。非公開としてよろしいでしょうか。

全 員

異議なし

添石委員長

それでは、異議ありませんので議案第4号「那覇市立幼稚園保育料等条例の一部を改正する条例制定に関する意見の申出について」は、議決により非公開とします。関係者以外の方は退席をお願いいたします。それでは、議案第4号「那覇市立幼稚園保育料等条例の一部を改正する条例制定に関する意見の申出について」、ご説明よろしくお願ひいたします。

本部副部長

提案理由・資料説明

添石委員長

それでは、本件につきまして、ご意見、ご質問ございましたら、よろしくお願ひいたします。はい、渡慶次教育長。

渡慶次教育長

3ページ、②の半額負担となるように改正する。その半額負担とは、という事で補足があり、3万8千円に改正するのですが、次の計算式を見ると0.57という事で、実際には0.5になっていないですよ。この金額の理由というのがあるのですか。

惣慶主幹

今回これまでの経緯があるのですが、入園料は、過去、那覇市も高く、その時から保育料の5割の免除額という規定がありまして、その間、保育料は下がってきているのですが、減免のほうは、そのまま残ってしまっている部分があって、それで今回、この半額の部分をそのまま減免額の改正はせずに、すでにある半額として、むこうに合わせて、そこまで半額になっていなかった部分を引き上げています。今後、国のほうから、こういう低所得者世帯に対しては、免除の方向に持っていくという事がありますので、その額を変えてしまつては、また変更、変更となると想定されたので、今回は、今ある減免額をそのまま利用して、それに合わせた額の減免ということにしております。

渡慶次教育長

保護者負担を半額という表現になっているので、実際の半額にはなっていないけれど、それを半額に近いということで那覇市の負担も、また逆に減らそうという事ですか。

惣慶主幹

それもあります。対象者が那覇市の場合、公立幼稚園が多いですので、減免する

ことによって那覇市の保育料の歳入がそれだけ減りますので、国からの補助が、3分の1以下ということで、実際は4分の1以内という実情なっていますので、少しでも負担をおさえる為に、その額におさえております。

渡慶次教育長 表現の仕方が、保護者負担を半額と言いつたかたちになっているので、我々としては、負担額を更に上げると今度は那覇市の負担額が増えるので、那覇市の負担もあまりないようなかたちで半額に近いという所で収めたという事でしょうか。この説明は大丈夫でしょうか。半額という表現で、0.57というのは、実際半額ではないので、これも気になって。那覇市の負担もある意味、考えながらということなのか。そして将来的には全額負担に向かっているということですか。

惣慶主幹 国の方向としては、予定はあります。

渡慶次教育長 見る人を見ると、何で半額にしなかったのか。という事を言われる可能性があるもので、その辺を注意して準備しておいていただきたいと思います。

添石委員長 ほか、いかがでしょうか。はい。喜久里委員

喜久里委員 実は私も、事前にいただいた時点で半額という計算、何か私の計算が間違っているのかな、というふうに受け止めたので、混乱される方もいるのかと思いました。もうひとつ、生活保護世帯の私立も保護者負担を無償という事になっていますが、私立は公立と違って、保育料が高いところが多いのではと思うのですが、そのあたりいかがでしょうか。

惣慶主幹 私立のほうも、園の保育料に合わせてではなくて、那覇市で保育料の調査をしまして、その平均をだして、去年21万1千円ぐらいだったのですが、それを保育料としての減免にプラス今回からは入園料もなので、調査をかけて数字をだすのですが、それを平均した額で一律になります。ですので、A幼稚園が例えば30万、B幼稚園が20万だった場合、A幼稚園については、限度額が21万1千円になりますので、そこまでの補助となります。B幼稚園については、20万を超えた額はだせないで、20万円までが限度額として補助の対象になります。

喜久里委員 こちらも、もし広報などに載った場合などは、30万あるけど、30万全部免除と思わないかな、と思います。

本部副部長 これについては、例年7月に、実際免除対象になる世帯があるかどうかを私立幼稚園、市内6園、県内もあるのですけれども、全体に呼びかけて申請をしてもらって、その分をうちの基準で減免をさせていただくと、これは歳出の部分で補助という形で、うちのほうからその私立幼稚園を通じて保護者のところにいくようになります。

喜久里委員 特に広報とかはされているのですか。

惣慶主幹 特別、広報ではなくて案内で、園を通してですがチラシを作成しまして、この額から限度額ということでチラシを送るようにします。

喜久里委員

わかりました。

神村委員

お尋ねしたいのですが、私立の幼稚園に通い、それだけの支払いをすることが出来れば生活保護を受けられないということが、自分たちが考えるとそういう現実があるのかなと思うのですが、やはり私立にもいらっしゃるのですか。

本部副部長

公立の場合、26年度は約20数名ということで想定していますが、私立にもやはりおられます。生活保護世帯であっても、例えば給与所得もありながら、子供がたくさんいらして、その分、生活保護を受けているところもございますので、そういった実際に生活保護の認定を受けた部分もございます。その分は余裕のお金ではないか、という考え方もあるのですが、逆に生活保護費を貰って、実際その部分で節約して、ほかの部分で節約して私立に行っているという事も考えられる。あくまでも、こちらのほうとしては、生活保護の認定がされているかどうか、ということが判断の基準になります。

神村委員

わかりました。

渡慶次教育長

宗教関係とか、そういったところしか行かせられない、というようなものもあるのですか。宗教にこだわるような、特にないですか。

本部副部長

基本的にこの部分は研究がなく、生活保護を受けている世帯が、どうして高い私立に行っているのですか、と調査をかけたことはないです。

神村委員

周りから見た場合に、保護を受けながら、保護と言うのは税金ですよ、税金を受けながらベンツに乗っていると、学校に電話が来たことがあるんです名指しで。これは校長がやることかと、どうするんですかと、そういうことが過去にありました。お金の使い方ですので、その家庭に任せられると思いますけれども、そういう社会の目から、傍から見ると違和感を持つ人がいるとは思いますが。

添石委員長

よろしいでしょうか。ほかに、はい、饒波委員。

饒波委員

3ページですけれども、生活保護世帯と多子世帯ということで別れると思いますが、多子世帯の場合、国は所得制限を撤廃してやっていくということで、多子世帯は高所得世帯も低所得世帯も同じ様な感じでやろうという方針だと思うのですが、那覇市はそれは違うという事でよろしいですよ。要するに、所得で制限をかけるという事で。将来的には、国の方針に従って全部やっぺいこうという方向になっているのですか。

本部副部長

はい、最初に申し上げた、この就園補助率3分の1以下でという国の補助する制度があるのですが、実質的には22%ぐらいしかなく、どんどん補助率が落ちてきていて、これが確実に3分の1とは言わずとも、4分の3とかもって国、政府のほうで負担していただければ、そういう考えになるのですが、どうしても一般財源からもちだしの部分が入っているので、なかなか国がそうすると言っても財源の負担が現状だと国に合わせてするというのは厳しいと思います。

- 饒波委員 今回、平成25年から26年で補助が増えると考えた場合に、いくらぐらいかかるという、試算はどうですか。
- 本部副部長 25年度実績1千24万7千円で、これが1千280万4千円、差額260万程度、歳入が減ることになります、減免額が増えるという事を考えています。
- 饒波委員 わかりました。
- 添石委員長 ほか、よろしいでしょうか。私の方から一点だけ、この免除というのはご自身で申請して初めて権利が使えると思うのですが、どの程度の申請割合なのかわかりますか。100%近く申請しているのでしょうか。
- 本部副部長 資格があるのに、申請していない人もいらっしゃるのかどうかという事ですね。
- 惣慶主幹 こちらで所得は把握できないので、あくまでも申請主義ですけれども、去年在園児が2千640人ぐらいいて、申請が560人ぐらいだったと思います。未納になっている世帯に対しては再三、減免対象の可能性がありますので、対象であれば申請して下さいという呼びかけをして、そこであがってきた分でしかわからないので、何割ぐらいという数字は出しておりません。
- 添石委員長 今の話では、やればできるんだけど、やっていないご家庭というのは実際あるわけですね。
- 惣慶主幹 あるのではないかと思います。それがどの程度なのか、何割というのは把握していないのですが、通常、減免申請の締め切りとして8月を設定するのですが、どうしても遅れてくる方がいらっしゃいますので、例年2月報告ギリギリまで減免の受付をして、呼びかけをして、その間ずっとポツポツ出てきますので、思いだしてからだとか、対象ではないかということで来る方がいらっしゃいます。
- 諸見里副参事 現場でも、担任の方から未納が続くと勧めるんですよ。でもそれを嫌がるというか、傷ついたというようなこともあったりしますが、ただ未納は良くないのでこういう事もありますよと言って、こんどは「忘れてた、ありがとう。」という方もいるんですよ。ですので申請を待つのではなくて、現場とも連携を取り合いながらやっています。
- 添石委員長 わかりました。あと一点、先ほど饒波委員からあった国の改正政策としては、所得制限の撤廃ということですが、那覇市は今回見送ると。ほかの市町村の状況とかがもしわかれば教えて頂けますか。
- 惣慶主幹 ほかの市町村でも、多くは確認していないのですが、生活保護のほうは全額免除という事だったのですが、だいたい財源的に厳しいという事で全廃せずに、前年の25年度並みになります、という市町村が多かったです。全部受け入れるというのは、やはり財源的に厳しいという事で対応できないという事が多かったです。
- 添石委員長 わかりました。では、よろしいでしょうか。それでは本件、議案第4号「那覇市

立幼稚園保育料等条例の一部を改正する条例制定に関する意見の申し出について」は、原案通り決定してよろしいでしょうか。

全 員

異議なし

添石委員長

はい、それでは、議案第4号は原案通り決定いたしました。ここで非公開を解かせていただきたいと思います。それでは続きまして報告1「那覇市健康ウォーキング推進事業の概要説明について」のご説明をお願いいたします。

伊良皆部長

報告理由説明

我那覇課長

資料説明

添石委員長

それでは、ご意見、ご質問がございましたら、よろしく願いいたします。

饒波委員

個人的にすごく楽しみなのですが、年間スケジュールを見ますと、今回はお祭りで終わるのではなく、そのあとのことも念頭においているみたいで、那覇市周辺が歩いていろいろな所に行けるような都市づくりをしてほしい。夏は暑いし、木陰もあまりない。そういうことの問題意識を持ちながらやっていただいて、都市をどのように造っていったらいいのかということまで、議論が進めばいいのかな、という感じがあるので、お祭りだけで終わらず、是非この活動が続いていけばいいなと思います。部会の方に、都市計画課とかが入っていますので、そちらのほうもお願いしたい。大変楽しみにしておりますということで、よろしく願いいたします。

添石委員長

ほかは、いかがでしょうか。

喜久里委員

私もとても楽しみなのですが、那覇市も広いので車で行って10キロ、20キロ歩こうという人も多いと思うのですが、駐車場は完備するのでしょうか。

我那覇課長

4,000人大会の規模になりますと、駐車場を確保するのは非常に困難です。できれば、公共の交通機関を使って会場にお越しくくださるようお願いをするというふうに考えております。

喜久里委員

わかりました。

添石委員長

はい、神村委員。

神村委員

イメージとしては、NAHAマラソンよりも、もっと縮小で、そしてもっと子供たちが参加するというイメージを持ちます。つまり、もっと市民的な感じを持つのですけれども、より沢山の人が参加できる、と考えた場合に、それに向けての前段階の準備というのは大事だと思うんです。皆さんが一生懸命頑張っても、周りが動かないと、そのへんのことをどのようにアピールしていくかとても大事だと思います。なるべく沢山の子どもたちも、わが那覇市という意識を持ちながら参加できるように。浦添のてだこウォークに行ったことがあって、結構、子どもたちも連れて参加しますから、那覇もそういうことが出来るように。そしてあと一つは、完走しましたという賞もありますか。

我那覇課長 大会に参加して最後までゴールにたどり着いた方には、完歩賞をお渡しします。それと参加賞として何かご提供できるものがあるのかということで、万歩計ですか、そういった物が調達できるのか、計画はしております。

神村委員 わかりました。

當間副参事 補足してもよろしいでしょうか。アピールということですが、まず市民の友の6月号から5ヶ月掲載の特集を組んで、全戸配達ということになるものですから、そういった面で皆が参加したいような雰囲気、今回マスコミ3社、琉球新報、O T V、ラジオ沖縄、の参加ですので、その中でも特集を組んでもらいながら、この大会までに向けてということで、これから調整をしていきたいということと、あと魅力あるコースということで、今月ずっと回りながら見ていくのですけれども、那覇市のウォーキング協会と一緒にですね、いろんな史跡であったり、那覇の玉陵であったり識名園とか、親子で、これは多分20キロコースになると思いますが、そういったなにかしらテーマを設けて、コースも設定していきたいなと思っております。地域のなかなか行かないような所も選ぶと。「ああ面白そうだね」、となると思うので、学校としてもいい地域の勉強になると思っておりますので、そういった面も含めて、那覇の歴史とかにつなげられるようなかたちで持っていけたらなと思っております。少し時間はないのですがコースを見ながら、工夫していきたいと思っております。

神村委員 はい、わかりました。

添石委員長 ほか、よろしいですか。

伊良皆部長 先ほどのPR的な考え方ですけれども、実行委員会の構成団体、42団体でありますけれども、この中でも那覇市協働によるまちづくり推進協議会、那覇市自治会長連合会、あるいは那覇市婦人連合会、そういった団体の方々、会員を通して地域にまずPRをしていただくと。これはウォーキング大会の10月19日の実施だけではなくて、健康づくりに関するような広報等々、すべて提供していただく、というようなことを考えておまして、これだけの構成団体になっていることも追加で説明させていただきます。

添石委員長 はい、渡慶次教育長。

渡慶次教育長 共催・後援を見ると相当な数になりますけれども、そういった団体には声をかけてはいるのですよね。勝手に名前を書いたわけではないですよね。少なくとも、ここに、名前が載っている人たちには、すべて直接本人の耳に入っているということですね。

當間副参事 通知でもって、各部署で手分けしてこの団体にまずあたったということと、改めて総会を通じ、役員を選任というかたちで、提出いただいておりますので、こちらについては団体の了解は得て、この名前は掲載させていただいております。本

日の総会にも、この方々が、都合で代理出席という方もいらっしゃるのですけれども、参加するということになります。

渡慶次教育長 この間、那覇ハーリーに行ってきて、結構盛り上がったんですよね。それで、観光協会にお願いしてハーリーに参加された団体、そういったところにも観光協会から声をかけてもらってとすると、結構盛り上がると思いますよね。そういった人たちがまた子供たちを連れて来られると、そうすると先ほど神村委員がおっしゃっていた子供たちの参加というのが増えますので。団体を利用して、当然考えていると思いますが、4,000人より増えるのではないですか。

神村委員 少しいいですか、感想ですけど。先ほど、史跡、文化的な街の様子を見ながらと言ったときに、ほんとに親子と一緒に歩くということに価値があるような気がするんです。歩くだけか、と最初思っておりましたけれども、そういうことを踏まえながら歩くっていう事が必要だと思います。那覇市に関して、こういう史跡とか文化財とかいうのはあまり知らないですよ子供達は。3年生で街探検、2年生で校区探検をやるんですね。マチグラーに行くんですが、皆、バスに乗ったり、モノレールを体験させたりとか。ある意味で親の責任をもって、もっと広く知る、とてもいいチャンスかな、と思います。

添石委員長 はい、喜久里委員

喜久里委員 先ほど、コースの件ですが、もしもファミリーの方でおじいちゃん、車椅子とかで参加したいと、マラソンの方でもいるので、ウォーキングだとなおさらいると思いますが、その辺りは想定にありますでしょうか。あと高齢の方で、自分でキャリーを押して歩く方も結構おられるのではないのでしょうか、ということと、余談なのですが、この頃のコマーシャル、歩く一ぽん、すごく受けたのですがご覧になりましたか。「たまには歩け、ウチナアンチュ」ということです。相当受けているんです。とてもいいコマーシャルをすると非常に受けるのではないかと思います。

添石委員長 先ほどの質問のあった件なのですが。

喜久里委員 車椅子とかキャリーなど利用される方がいるのではないかと思います。

我那覇課長 ファミリーコース3.9キロは、コース設定としては、奥武山運動公園内、また段差の少ないウォーキングに合わせたようなコース設定もありますので、それで3.9キロがとれそうですので、そのあたりも考えております。小さな子からお年寄りの方まで参加しやすいようなコース設定を。またハードなコース設定もありますし、やさしいコース設定ということで考えております。

喜久里委員 先ほどに戻るのですが、そういう方たちは、車で横付けして降ろしていくパターンが多いのですが、そういう混雑も想定にいられたらいいかがですか。

我那覇課長 駐車場の件については、検討させていただきたいと思います。

添石委員長　　ほかよろしいでしょうか。私の方からですね、私も小さな子供がいるのでファミリーコースかな、と思っていたのですが、先ほどのお話では、ファミリーコースは奥武山のエリア内と聞いてすごくがっかりしたのですが、逆にスタート地点を分散させて史跡巡りとか、家族でなかなか歩かない那覇市の街並みの気づきという意味で参加するのであれば、やはり子供たちにはこれくらいのコースだと思うので、奥武山の中だけ歩くというのは、目的は達成するのでしょうか、何か一緒に家族で話をしながらという部分で、少し物足りなさを感じるのですが、そこはまだ検討の余地はあるのでしょうか。

我那覇課長　　コース設定につきましては、あっちゃ一部会でこれからやっていくのですが、3.8キロコース、1コースだけでなく、7.8キロコースも1コースだけではなく、何コースか作っていききたいと考えてはございます。そのあたりで検討させていただきます。

添石委員長　　よろしいでしょうか。私のほうからですけれども、参加は、自由参加でしょうか。それともNAHAマラソンのように、事前にエントリーが必要なんでしょうか。

我那覇課長　　事前に申し込みを受けて、定員に達したら締切と考えております。ただ当日、参加したいという方もいますので、当日枠もある程度定員を決めて、そこで締めるというふうには考えております。大会準備上、事前に申し込みを受け付けておかないと、何名程度集まるのか把握していかないといけないので、事前に申し込みしていただいて、と考えております。

添石委員長　　もう一点、これは意見ですが、この構成団体を見ても、健康を普段から意識しているような、地域で活動している方々と思うのですが、産業界・経済界がいちばん不摂生で、健康を重視しないといけない。地域活動にしても、よくいわれる壮年・青年期のお父さんたちは、なかなかこういう活動に参加しにくいのかなと思って。是非、組織図の中にも職員・社員健康推進部会がありますが、商工会議所だけでは弱いと思うので、そこを皮切りにもっと経済界、産業界への告知とか、巻き込むようなかたちを考えていただくと将来もっとより発展的に、積極的に那覇市全体を盛り上げていけるかなと思って、その辺は強化してほしいということで、意見として申し上げます。

伊良皆部長　　今回、初めての事業となります。実行委員会があつて、そのうちに運営委員会、さらに専門部会というようなかたちで、6つの部会を構成しているのですが、今、委員長がおっしゃられた部分、事業を推進していきながら改善するところは改善をしていく、この部会についても内容について、場合によっては次回で見直しが出てくるかもしれません。その辺りは、この事業を進めながら、あるいは済んだあと反省等を活かしながら、組織についても見直しができる分については、見直しをしていくという状況にはなっております。

添石委員長 わかりました。4ページにもありますが、那覇商工会議所については、いろいろな意味で波及の力を持っていると思いますので、是非、積極的に活動していただければと思います。それではよろしいでしょうか。ご意見、ご質問も出尽くしたと思いますので、本件に関しては終了したいと思います。それでは進行したいと思います。つづきまして、日程3の議案第5号「教育事務の点検評価対象事務事業の決定について」を審議いたします。それでは、説明をお願いいたします。

伊良皆部長 提案理由説明

山内課長 資料説明

伊禮主査 資料説明

山内課長 補足ですが、各事務局の方で評価対象事業として抽出した事業の内容及び抽出した理由を少し説明してよろしいですか。

添石委員長 はい、お願いします。

山内課長 まず、議案書を開けて一覧表がありますが、平成26年教育事務の点検評価対象事務事業をご覧になっていただけますか。「那覇市ブックスタート事業」、これは乳幼児健診時に、親子で読み聞かせを行い、絵本を贈呈して絵本を介した親子のふれあいを推進するという事業でございます。これまで1回も評価を受けていないということもありまして、この事業は乳幼児検診を受診した97.6%がこの読み聞かせ事業に参加していると。多くの方からも好評というアンケートで、皆良かったという満足度が高い結果を得ております。これは、生涯学習課の事業で、非常に良い事業だと評価しているのですが、課題として97.6%が参加しているけれども、2.4%の未受診の方がこの事業に参加していない。そういう方々に対してどのようなアプローチをしていったらいいのか、という事を検討する意味でも評価してもらいたいということであげています。次、「スポーツ推進委員事業」、これは地域におけるスポーツの振興を図ることを目的に、各地域にスポーツ推進員というのを委嘱しまして、地域のスポーツ実技指導、助言を行うというものでございます。これにつきましては、ほとんどが人件費になりますが、この方々が、地域に対してどれくらいスポーツ振興に貢献しているか、そういうことを評価してもらいたいということであげております。「老朽校舎等の改築計画」、これにつきましては、昨年度、施設課で老朽校舎等の課題を解決するための年次の計画を作成しております。それについての評価を受けたいということであげております。次、「プラネタリウム番組開発事業」、これは沖縄振興特別推進交付金事業を活用した事業になりまして、平成24年度から28年度までの事業として取り組んでいるものであります。平成24年度には4本、25年度に4本、そのうち2本はうちなーぐちバージョンという事で番組を作っているのですが、これについて評価を受けるという事でございます。「公民館講座事業」、これは各

種の講座、学級を実施しており、平成20年度、22年度も評価を受けています。以前の評価コメントで、社会のニーズに合った講座を持つことも必要であるが、公民館にしか出来ない講座を企画していく必要があるのではないか、という指摘を受けております。公民館しかできない講座を企画することは、どうしても参加者が少なくなると、その辺の対策も必要ではないかというご指摘がありまして、今回それについて見てみたいという事でございます。次の、「図書館資料購入事業」、これは図書の購入だけではなく、本に対する講演会とか講座等も実施しております。そういうことを総合的に含めて評価していきたいという事でございます。「図書館コンピューターシステム整備事業」は、平成24年度からの事業ですが、平成24年度の途中で、この図書館のシステムの入れ替えをしております。24年度についても評価を受けているのですが、25年、昨年度は1年間、それについて稼働した実績がありますので、その経過を見ながら比較検証をしたいという事でございます。「学習ボランティア支援事業」、これも一括交付金を活用した事業でございます。平成24年度の、これも年度途中からの実施でございます。平成25年度は事業を拡大して1年間を通して実施していますので、それについての評価をお願いするということでございます。「基礎学力向上のため学習支援事業」についても、これは小学校3年生の算数の授業に教員の免許を持っている方を支援員として派遣して、学級担任と一緒にチームティーチングや個別学習をするために行う事業であります。これも先ほどと同じように24年度途中から実施していて、最初はモデル校事業というかたちで何校かやったのですが、25年度は小学校全校実施しているという事で、これを評価していくということでございます。「那覇市小中一貫教育校推進事業」については、那覇市教育委員会の政策的な大きな事業ですが、今まで、まだ評価してなくて、昨年度、神原中学校のモデル校をやって、今年度から小禄地区も実施するという事になりまして、是非一度、評価を受けたいという事でございます。「地産地消推奨推進事業」、これは平成24年度から26年度までの一括交付金を活用した事業でございます。昨年も評価を受けているのですが、委員のほうからも、課のほうからも、引き続き経過を評価していただきたいということでもあります。「街頭指導事業」、これも一括交付金を活用した事業です。予算額が大きいということもありますし、ほとんどが人件費であるのかもしれないのですが、委員の方から、非行防止、早期発見、早期対応といった意味では青少年健全育成に対して果たしている役割は大きいのではないかと。街頭指導に対する事業の取り組み状況や専任指導員のかかわりだとかを見ていきたい、という事で評価の対象にあがっております。「学習支援事業」、教育相談課の事業ですが、これも一括交付金事業です。不登校、不登校傾向にある児童生徒を対象にした事業でありまして、高校受験を行う生徒

や過卒生への受験対策としての支援を行っております。これは24年度からの途中から実施ものでありまして、25年度からは人数を増やして拡大していますので、それについて評価をしていただくということでございます。「森の家みんな管理運営事業」、これは昨年度の評価がC評価、あまりいい評価ではなかったものですから、これについて、どの位改善されているかということで、もう一度評価していただくという事でございます。「青少年フォローアップ事業」、これは成人式実行委員会または青年団体連絡協議会、こども会育成会とか、青少年育成団体のサポートや青少年健全育成啓発を行う事業ということです。昨年度は、成人式のフォーラムを実施しています。昨年度からこの事業は新規事業として立ち上げていますので、今後の事業の拡充のためにもということで、事務評価委員の要望でした。「初任者・10年経験者・その他研修事業」、これは平成25年度から那覇市が中核市に移行しまして、県が行っていた、教職員の研修の一部を那覇市が移譲されてやることになりました。去年1年間実施していますので、それについて効果的に実施されているかどうか検証するという意味であげています。次に「学力向上に向けた調査研究事業」、これも一括交付金を活用した25年度新規事業でございます。これは小学校2年生、4年生を対象に学力調査、国語と算数を行うものでございます。この学力調査を行って、分析結果をデータとして提供し、学力向上の方策を提案するという事業でございます。これは先ほどご説明しました小学校3年生を対象に行う「基礎学力向上のための学習支援事業」がありますが、小学校2年生、4年生で、こういう学力調査を行います。が、「基礎学力向上のための学習支援事業」との連携を図りながら、指導方法の改善や学習効果を高めていきたいという課の意図がありますので、そういう所も検証していきたいという事でございます。「特別支援教育充実事業（預かり保育）」、こども政策課の事業です。これも一括交付金を活用した事業で、午前の教育課程だけの特別支援ではなく、午後の預かり保育でもヘルパーを派遣して、やっていくということで事業を拡大したということで評価して頂きたいということで、課からの要望があります。以上でございます。

添石委員長

それでは、ご意見、ご質問がありましたら、神村委員。

神村委員

内部評価と外部評価があるのですが、外部評価の評価委員の方々は、直接その事業そのものを見に行ったりとかできる事業もあるんですよね。紙面上の報告だけではなくて。

伊良皆部長

事務点検評価委員の方々、青少年健全育成にかかわった方々も二人ほどいらっしゃいます。あと大学の講師をされている方もいらっしゃいます。過去においては、先ほどの森の家みんなにつきまして、公式の会議上のものではないのですが、委員ご自身が直接、向こうに出向かれてその実態を確認することもございま

した。基本的には、事業があがって実際に点検を評価する場合につきましては、各課の、こういった会議の中でヒアリングをしていくこととなります。でもその中で、先ほど申し上げましたお二人の委員につきましては、これまで青少年健全育成でありますとか、あるいは教育相談支援事業とか、学校とのかかわり等々で、実際経験なされた方々がいらっしゃいますので、その分につきましては、ご自身の経験からなさることもあります。また、いま委員がおっしゃられる部分につきましては、委員の方から、また実際こういうのも確認したいということであるのであれば、その時間をとることについては可能であるかと思えます。

添石委員長

よろしいですか。ほかいかがでしょうか、喜久里委員。

喜久里委員

神村委員のおっしゃったことと似ていますが、昨年度、森の家みんなを私達も直接見せていただきましたが、プラネタリウムのうちなーぐちバージョンをすごく期待して、どういうふうに来上がっているのか見たいなと思えます。希望です。

添石委員長

はい、伊良皆部長。

伊良皆部長

毎年1回、教育委員の皆さん対象にして、教育施設関連の視察で日程を組ませていただいておりますが、ご要望がございましたら、今年度の視察の中で取り組むことは可能かと思えます。

喜久里委員

以前、うちなーぐちバージョンも見たのですが、もっとこうお金をかけた分だけ楽しくなっていたらなと個人的に思っていますので期待しています。

山内課長

施設見学ですけれども、那覇小学校に行く予定がございます。那覇小学校が新校ということで、一緒に見に行こうという事で那覇小学校だけ設定したのですが、また年度途中で、機会を設けて施設周りを検討していきたいと思えます。

添石委員長

よろしくお願ひします。はい、饒波委員。

饒波委員

観点が違うかもしれないのですが、事務点検評価ということですが、前々回ぐらいでマネジメントシステム評価というのがあって、あれも事業の評価ですよ。これとはまた全然違うのですか。

山内課長

この事務点検評価は、まず内部評価と外部評価とがございます。マネジメントシステムは、外部評価ではなくて、内部でということでした。これは、たとえば平成26年度の目標を定めて進捗状況をチェックしていくという評価でございます。少し評価の観点が違うということです。

饒波委員

進捗状況の評価がマネジメントで、この効果を評価するのが事務点検評価という事でしょうかね。

山内課長

そうですね。

饒波委員

わかりました。それでこの事業の選定に関して、結構自治体で選ぶ項目で、自治体の教育委員会のレベルというのがわかってくるとは思うのですが、市民や議会

が、知りたがっているような関心があるような事項を抽出してそれを調べて公開していくというような感じで、且つ、モラル的にやらないといけない縛りもあるので、結構大変だなという感じがしています。去年の新聞を見て思ったのが、いじめとか体罰とか、あるいは学力向上とか、しまくとうば問題とか、あとは教師がものすごく疲弊しているとか、というような一般の人たちが教育に関する関心があるような内容が取り上げられているのかな、というのがありますが、委員会の中で、マスコミで話題になって取り上げると、そういうようなのがありましたら、教えてください。

山内課長

具体的にはそういう話はないのですが、まず課がこういう事業を評価していただきたいという中に、そういうものも当然、頭の中にありまして委員の先生方も抽出調整の中で、課の意見を聞きながらあがってきた事業を見ながら、これではなく、これを見たいんだという話の中で、そういうのを意識してやってきていると思います。いじめとかの問題については、過去、何回か生徒サポーター事業という事で、不登校の子供とか、問題行動を起こす子供たちに対する事業がございましたけれども、それについてもやっています。

添石委員長

はい、渡慶次教育長。

渡慶次教育長

三重県の前の知事、今、大学の先生になっている、名前を忘れましたが、あの方が事務事業評価ということで、三重県に取り入れて、あれは目的が、事業のスクラップというような目的でいれて、ある程度効果があったわけです。三重県の財政を立て直すということで、それが全国的に流行って、那覇市でも平成16、17年ぐらいですか、事務事業評価ということで取り入れて、財政課としても、これをもってスクラップが出来る事業というのを何とか見出したいというのが、どこかにあったんですね。今回、中核市になって、包括で監査を受けているのですが、あの監査は指摘事項があったり、あるいは提案があったりとか、本当に監査をしてこうしたらどうか、これは、少しまずいのではないか、とかの指摘。今回のこの評価というものは、評価をしてもらって後、何らかの指摘があったものについては、これを改善するとか、こう見直した、というようなまとめといったものはされているのですか。

伊良皆部長

事務点検評価を終えまして議会に報告をして、そのあとホームページに載せます。当然、その前に最終的な報告答申をする前に、教育事務評価委員の方々と各主管課と委員が評価をおこなったことに対する解釈を行いながら、主管課がそれを聞きながらまとめていくこととなります。その意味では、総務課としては、各課、改善を要するというような状況があれば、当然、改善に向けてやられているだろう、というような観点でもってはいますけれども、今、渡慶次教育長がおっしゃられた、その後どうなりましたかという報告は、実はやられてはおりません。こ

の件に関しては、先だって総務課の内部調整会議の中でも、この部分が欠落しているのではないかという内部の問題意識もありまして、今後、その辺りの方向性を考えていこうということで、今、作業を進めているところではあります。

渡慶次教育長 報告をせずとも、それがちゃんと活かしているというような実績があれば、それはそれでいいのですが。それは何のための評価だったのかと言われないように、ちゃんと成果として、内部でもちゃんとやっていますよ、ということがなお良いかなと思います。

伊良皆部長 丁度、今、話をやりましたようなかたちで、私どもも拡充する事業、あるいは改善する事業、当然これは、この事務点検評価を受けて自分たちも一部事業を改めてまた見直すという様な状況になりますので、その辺りは当然、各課でやっていただいているものと、いうふうに理解しております。

添石委員長 ほかよろしいですか。私から一点だけ確認ですが、この事業を選定されていく過程の話ですけれども、課からあがって、局議を経て、最終的には評価委員会、評価委員の先生方が場合によっては、課からも局議からもあがっていないけれども、これはあげるべきだということで、最終的には評価委員の方々が決定してくるということで理解してよろしいのですか。

山内課長 課からまずあげてもらって、局議で調整をして、これを評価委員会にあげて、評価委員会の意見を聞きながら、評価委員会の先生方が、これも見たい、あれも見たいというのを含めて、この判断になるということです。

添石委員長 わかりました。その時、場合によっては、この場でこれも入れなさいという事もあり得るとい事ですね。わかりました。よろしいでしょうか、はい、神村委員。

神村委員 これは公表されるのですか。

山内課長 報告書としてまとめまして、議会に報告することと、ホームページでアップしております。

添石委員長 よろしいでしょうか。はい、喜久里委員。

喜久里委員 教育相談課の学習支援事業、校長会にこの間伺ったら、全員、高校受験合格しました、と言う成果をあげていたので、評価も良いと思うのですが、前回の校長会で聞いた時に、昨年、生活保護課かどこの課か、はっきりしないのですけれども、塾に委託して同じような授業をしていたような気がするのですが、そういう2つの事業、両方、まとめない意義というのがありますか。

森田副部長 今、おっしゃっている事業は、福祉部のほうでやっている生活保護世帯の中学生を対象にした事業だと思うのですが、今、こちらにあります学習支援事業というのは、不登校気味の子どもたち、学校に行けない子どもたち、過卒生で高校へ受験したいという子供達の支援という事でやっています。

喜久里委員 あちらは負のスパイラルを切るとおっしゃっていた、ここは不登校気味の子ども達

をやると、わかりました。

添石委員長 よろしいでしょうか。はい、それでは意見、ご質問も出尽くしたようですので、それでは議案第5号「教育事務の点検評価対象事務事業の決定について」は、原案通り決定してよろしいでしょうか。

全 員 異議なし

添石委員長 それでは本件に関しましては、原案通り決定いたしました。以上をもちまして平成26年度第3回教育委員会会議定例会を終了いたします。

案件の審議結果

議案第4号	那覇市立幼稚園保育料等条例の一部を改正する条例制定に関する意見の申出について	原案どおり可決
議案第5号	教育事務の点検評価対象事務事業の決定について	原案どおり可決